

平成 26 年度文化芸術創造都市推進事業 創造都市ネットワーク会議（総会）

司会：高橋氏

ただ今から、「平成 26 年度 創造都市ネットワーク日本 総会」を開催します。

本日の会議の司会進行を務めます、金沢市都市政策局担当局長 企画調整課長の高橋と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

それでは、本日のプログラムに入ります。はじめに、本ネットワーク代表幹事団体で開催都市でもあります山野之義金沢市長より、ご挨拶を申し上げます。

金沢市長：山野氏

金沢市へようこそいらっしゃいました。心より歓迎をいたします。本日は文化庁の青柳長官、顧問の佐々木先生にもお越しいただきました。心から感謝を申し上げたいと思います。この CCNJ、創造都市ネットワーク日本ですけれども、設立から 2 年がたちました。そして 46 自治体、18 一般団体・個人会員のネットワークに広がりました。大変心強く思っております。そして今年 5 月、ユネスコ創造都市ネットワーク会議が日本で初めて、この金沢で行われます。是非、この CCNJ の皆さま方のお力添えをいただき、その会議を成功させることによって日本中に創造都市の名前を広げていければと思っています。

みなさんのお手元にはないのですが、これは金沢市の水です。おそらく、皆さまの自治体にもペットボトルにして販売されている所もたくさんあるかと思いますが、これは少し変わっていますよね。金沢の伝統工芸で加賀手毬というのがあります。前田家の三代藩主利常公に、珠姫という徳川 2 代将軍の子どもが嫁いできた時、遊び道具として持ってきた手毬が、加賀手毬としてずっと伝統工芸として残っています。その加賀手毬をイメージしたデザイン。金沢美術工芸大学の女子大生がデザインをし、それを採用してペットボトルとして販売しています。可愛らしいでしょ、色も 4 種類ある、水も美味しい、文化的、でも不便なのです。鞆に入れるとなると、かさばります。冷蔵庫のドアポケットにも入らない。僕はいつも言うのです。文化と言うのは不便なものだ。これが便利だったら、機能的だったら、さらに機能性を求められて、一般的な形になってしまいます。不便というのは語弊があるかもしれませんが、機能性を必ずしも求められないところが、おそらく文化として残っていくのだと思います。ただそうは言っても、我々の生活と全く乖離してしまったら、おそらくどこかで途切れてしまう。不便でありながら、我々の生活で接点を持っているからこそ、文化庁長官の前で文化論を言うのもおこがましいところですが、文化として残っているのではないかと思います。

その積み重ねが文字通り文化じゃないかと思っていますし、それぞれの都市の文化を大切に磨き高めていくことが、都市のブランドを高めていくことになると思います。創造都市

ネットワークの仲間として、お互いを刺激しあって、個性を再確認して、その個性にさらに磨きをかけようという仲間が集まった会だと思っていますし、その刺激を得ながら、いまちをつくっていければと思っています。本日はどうもありがとうございました。

司会：高橋氏

ありがとうございました。続きまして、青柳正規文化庁長官から、ご挨拶を賜りたいと思います。青柳長官、よろしくお願いいたします。

文化庁長官：青柳正規氏

本日の総会にあたり準備にあたってこられた、一般社団法人ノオトの皆さま、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）の顧問である佐々木先生、今年度の CCNJ の代表幹事団体であり、本総会の開催都市でもある、山野市長をはじめ金沢市の皆さま、本日のためにお越しくださった CCNJ 加盟の皆さま、その他多くの皆さまのご尽力に、感謝を申し上げます。

皆さまよくご存じかと思いますが、現在政府でも、「まち・ひと・しごと」という地方創生の政策が、国にとっての最重要政策のひとつであり、政府全体が地域おこしに取り組んでおります。小規模の町や農村の疲弊が大きいことは、私が言うまでもないと思います。例えば、富山県に下村という地域がございます。10年くらい前の統計では、この地域は、2000人くらいの人口がおり、250家族くらいの農業を携わっている方々がいらっしゃいますが、専業農家はたった1件で、第1種兼業農家も17件しかございません。後の方々は第2種兼業農家であり、農村であった所も、構造的に変わってしまっています。そういう所で、年中行事を調べると、村を挙げての年中行事が25くらいあり、そのうち16から17くらいが農耕儀礼としての年中行事でした。ところが、その地域のコミュニティの核としての役割を兼ねていた農業の役割が変質するとともに、農耕儀礼としての年中行事も変質、もしくは消滅していつております。つまり、経済的、社会的な構造変化により、日本で非常に重要な役割を果たしてきたお祭りなどの文化も、形が変わってきています。一方で、下村の伝統行事ではなかった、3月3日のお雛様や、5月5日の端午の節句などが取り入れられていつて、それが非常に盛んに催されるようになっていきます。コミュニティという地域におけるまとまりを持つためには、お祭りなどの文化が必要なわけですが、その文化は、新しい社会構造や経済構造に対応したものになっていなければならない。その部分をどうしていくかが、文化芸術の持つ創造性で地域を活性化するという、文化芸術創造都市の取組を推進する CCNJ が担っている部分だと思われれます。よき伝統を残しながら、新たに構造的に変わる部分に対応した文化を生み出していくといった取組を推進することで、ようやく、日本の様々な地域が活性化していくのだと思います。

そして第2に、1970年代、80年代の高度成長、バブルが起こった時によく言われましたが、「日本はものづくりに優れている国だから、GDPが世界2位にまでなっていた」と言われていることについて、実は、正確にはそうではないのではないかと考えております。

第2次世界大戦が終わった時の我が国の人口は7200万でした。それが1980年くらいには、4000万人以上増えて、1億1千万を超えている。つまり、昭和20年に比べると5割以上の人口増があったからGDPが増えているのです。現在、中国やインドでも、人口が増えているからGDPが増えている。逆に言えば、2030年には、1000万人程度人口が減っているだろうと考えられています。つまり、毎年60万人くらいの人口が減っていくわけです。60万人が減るということは、一人の生涯所得を2億5000万とすると、毎年600億円、単純決算すると、15年間で、2.5兆円とか3兆円くらいが物理的に減っていくのです。そうになると、経済の縮小に向かっている我が国で、個々の人々の生活のクオリティをどう維持するかが、今後の豊かさの指標として一番重要であると思われます。このクオリティを維持するのは、まさに文化をどれだけ充実するかにかかっています。人口減により我が国のGDPが縮んでいくと思われませんが、その時に、我々が日本に住んでいる幸せや安全を実感し、満足度を維持し高めていくには、いかに文化を充実させるかではないでしょうか。

先ほどお話を聞いていましたが、この金沢市は、ナンシー（Nancy：ナント市）と姉妹都市であります。私は、ナンシーに2〜3度行っておりますが、そこは、いわゆるアールデコで大変有名なところですよ。町中に、曲線を使った素晴らしいアパートや銀行があるところで、しかも、周りがシャンパンを作る地域なので、大変に豊かな所です。そこにシャンパンのオーナーであった人に注文されて、画家の藤田嗣治が晩年の頃に短期間で描き上げた絵がある、教会のような小さい建物があります。ナンシーのような素晴らしいまちと協力しながら、お互い文化というものを認め合って、それを軸に街の活性化を図っていらっしゃる金沢市に尊敬を申し上げると同時に、この創造都市、またナンシーにしても、グラスゴーにしても日本の金沢、横浜にしても、まちの政策を主導する首長さんのイニシアティブというものが非常に重要な役割をしていると感じております。そういう意味で、金沢市では、山野市長が先陣をきっているので大変心強いです。現在日本では、様々な地域おこしが行われていますが、CCNJほど勢いがあるって、実際に様々な活動が行われている組織はなく、日本の一番先陣をきっているのではないかと思います。そういう意味で、もっともって勢いをつけて、広がりを持った活動になることをお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

司会：高橋氏

本日は本ネットワークの顧問である佐々木雅幸先生にもご臨席を賜っております。顧問からもご挨拶を頂戴できればと思います。宜しくお祈りいたします。

顧問：佐々木雅幸氏

皆さま、こんにちは。佐々木です。このネットワークというのは日本の国内で進めているものですが、実はユネスコがグローバルなレベルで創造都市ネットワークを進めておりますし、アジアにおいては昨年からは日本と中国と韓国の間で東アジア文化都市という形で事

業を展開しまして、ちょうどグローバルと、広域とナショナルと 3 つのレベルでのネットワークでムーブメントが揃ってきた。改めて大きな節目に立っていると思うわけです。1月にユネスコ本部に行って、いろいろ議論をさせてもらいましたが、昨年度 12 月の 1 日に新規の加盟国が発表され、現在世界 32 か国で 69 都市という形まで発展しています。この中にはこれまで比較的関心の薄かったドイツが一気に 3 都市入りしましたし、その中でもハイデルベルクとハノーバー等、有名な都市が入りました。それからスペインでもビルバオが今頃入ってきたかと。アジアでは景徳鎮、ビックネームですよ。クラフトの分野では全世界に影響を与えたような景徳鎮が入ってくるということで、内容面でもこれからかなり充実してくると思います。日本も最初は名古屋と神戸の 2 都市が 2008 年に加盟をして、次いで 2009 年に金沢が入った。その後しばらく 3 都市のままだったのですが、一昨年、昨年と相次いで札幌と浜松と鶴岡が入った。ユネスコの場合は 7 つのジャンルを設けているのですが、7 つのジャンルの 5 つまでこの 6 都市でまわるという形になってきて、これは世界で見ても相当なレベルだということですね。尚且つユネスコの方から見て日本の国内に創造都市ネットワーク日本というものがあって、しかも 23 自治体で出発したものがわずかの期間の間に 46 と、倍増しているわけです。この調子でいきますと 2020 を目途に 170 という目標を掲げているわけだけれど、この勢いは持続されればこういったことも可能だと思うわけですね。

今回は数だけではなく、質の面でも創造都市として相応しい、高い目標を掲げる都市が出てきてほしいと思います。幹事団体の長として横浜が先陣をきり金沢が今引き受けてくださっているわけですが、是非この金沢の後、我が自治体こそ引き受けたいという所が次々と出てきてくださるといいかなと思います。それから今日は北海道の東川と札幌、東北、関東、中部、関西、四国、九州、あと沖縄が無いのです。先々週沖縄に行って講演してきたけれど、是非沖縄でも、どこかにネットワークに入っていて、文字通り全国的な広がりを持つものにしていきたい。是非いろんな機会を通じて皆さま方も働きかけをしていただきたいですね。

それから 2 月 9 日に八戸にいまして、八戸は昨年度の文化庁長官表彰を受けたところで、その記念のシンポジウムに、本来なら長官がいかれるところ、私が代わりに行ってきたのですが、やはり東北の場合、震災復興の中で物理的な復興もそうだけれど、心の復興ということで、これからいよいよ精神的な生活の充実だとか、日常生活の中に文化がきちんと根付くような、そういう形の被災地における生活の向上というものが求められる。

とりわけネットワークを組んでいるのですから、もっと交流を強めながら、被災された地域におけるネットワークの影響を広めたいということで、これからの課題があるかとも思っています。

昨年は札幌で政策セミナーを開催させていただいて、札幌ではちょうど国際芸術祭が開かれた。昨年、横浜は横浜トリエンナーレを開催された、それから BEPPU PROJECT が東半島芸術祭をやっておられた。ということで創造都市事業の中に国際的な現代芸術祭と

いうものが定着されて、2年とか3年とかという形で継続的に開催されていく。ということが進んできて、創造都市事業を継続的に持続的に発展させる、その為に現代芸術祭というものが継続的におこなわれ、そして担い手の人たちから、もっと若い人たちが生まれてくるということが望ましいわけですが、そういう意味で創造都市と現代芸術祭というようなネットワークの中における部会を作ったらどうかという意見も聞いております。考えてみると、我々が目標とするベネチアビエンナーレは100年以上続けられているわけですが、文化の運動というのは先が長いです。持続的な取り組みになるので、もちろん2020という東京オリンピック、パラリンピックの成功も大切だけれど、もっと長期的な視点を持った取組ということも併せて一緒にこれから考えていきたいと思っております。どうぞ、ますますの発展をされることを祈念しまして、挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

司会：高橋氏

ありがとうございました。山野市長はこの後、次の公務がありますので、退席させていただきます。

それでは、議事に入りたいと思います。議長の選出ですが、事務局案として、金沢市都市政策局長の相川を指名したいと考えております。ご賛同いただける方は拍手をもって承認いただければと存じますが、いかがでしょうか。

ありがとうございます。それでは、ここからの議事の進行は、相川局長にお願いしたいと思います。相川局長、よろしくお願いたします。

議長：相川氏

金沢市都市政策局長の相川でございます。ここ金沢21世紀美術館で、創造都市ネットワーク日本総会を行われる事に関しまして、文化庁、佐々木先生に感謝を申し上げたいと思います。市長の話にもありましたけれど5月には創造都市ネットワークの世界会議を金沢で開催させていただきます。改めてご案内をさせていただきますが、いろいろな関連事業を含めて開催させていただく予定でありますので、その際は3月14日に新幹線が開通いたしますので、また新幹線でお越しいただける方もたくさんおいでになれるのではないかと思います。心よりお待ちしております。

ただいま議長に指名されましたので、これから議事をさせていただきますので宜しくおねがいたします。最初に、本日の出席者数について、総数を事務局から報告願います。

事務局：橋本氏

事務局を担当しております、金沢市企画調整課の橋本と申します。

本日の会議の自治体・団体・個人会員の出席者数についてご報告します。

○自治体

27 団体

○自治体以外の団体 4団体

○個人会員 1名

となっております。以上でございます。

議長：相川氏

ありがとうございます。それでは、議案の審査に入りたいと思います。議案書の方をご覧いただきながら進めさせていただきますが、第1号議案「平成26年度事業報告について」および第2号議案「平成27年度事業計画について」をあわせて議題とさせていただきたいと思います。それでは、各議案について事務局から説明願います。

事務局：橋本氏

議案についてご説明します。第1号議案、平成26年度事業報告についてでございます。

平成26年8月8日に、創造都市政策セミナーを札幌市で開催いたしました。テーマは「芸術祭と創造都市」で、会場は北海道大学構内ファカルティハウス「エンレイソウ」で、スクリーンに投影しているとおおり、緑あふれる大学構内の施設での開催となりました。

基調講演として、青柳長官、北川フラム様にご講演をいただき、横浜市創造都市推進課トリエンナーレ担当の田邊係長、BEPPU PROJECTの山出代表理事、札幌市創造都市推進担当部長の酒井担当部長からそれぞれの取り組みについて事例発表をいただき、佐々木顧問をモデレーターとしたパネルディスカッションを実施いたしました。

また、現地視察として、札幌市内各地を会場として開催されていた札幌国際芸術祭の視察で札幌芸術の森美術館を訪問しました。

ユネスコ創造都市ネットワークのメディアアート部門で登録認定された札幌市ならではの作品や屋外展示、こちらの展示は周囲に配置されたスピーカーからの音を用いた作品で写真では伝わりにくいのですが、このような多彩な作品を拝見することができました。

続いて、8月10日に、創造農村ワークショップを東川町で開催いたしました。テーマは「創造農村と文化景観ツーリズム」で、会場は東川町地域交流センター多目的ホールでしたが、この交流センターは、東川小学校と一体的に整備をされた施設で、非常に開放感にあふれた施設でした。

佐々木文化庁文化芸術創造都市振興室長と松岡東川町長にご挨拶をいただいた後、北海道大学観光学高等教育センターの敷田教授から「創造農村とツーリズム、都市と農村の新たな関係を創る」と題した基調講演をいただきました。

鳥取大学の野田教授をモデレーターとし、日本で最も美しい村連合会長の浜田美瑛町長、テマヒマうつわ旅主催の貝沼様、開催地の松岡東川町長によるパネルディスカッションを実施し、会場からも多くの質問が出るなど、非常に白熱したワークショップになったかと思えます。

ワークショップに先立ちまして、前日の 9 日に、東川町国際写真フェスティバルに参加いたしました。第 30 回写真の町東川賞授賞式や、同賞受賞作家作品展の鑑賞、街中ではあらゆるところで写真展やイベントが開催されておりました。

また、自然豊かな東川町では全家庭が地下水でまかなわれており、その水源である大雪旭岳源水にもご案内いただきました。

10 月 31 日には、横浜シンポジアを会場に、創造都市ネットワーク日本自治体サミットを開催いたしました。青柳長官、林史子横浜市長のご挨拶の後、佐々木顧問から「東アジア文化都市を契機としたネットワーク形成」と題した基調講演をいただきました。

「東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした創造都市・創造農村の更なる発展」を主テーマとした首長サミットを実施しました。セッションⅠでは、「文化景観や資産を生かした創造都市・創造農村の発信と CCNJ の役割」をテーマとし、三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター主席研究員／センター長の太下様がファシリテーターをつとめ、榎本鶴岡市長、酒井篠山市長、仲川奈良市長、山野金沢市長によるパネルディスカッションを実施しました。セッションⅡでは、「現代の文化芸術の国際発信」をテーマとし、東京藝術大学音楽環境創造科の熊倉教授がファシリテーターをつとめ、上田札幌市長、関口十日町市長、門川京都市長、林横浜市長によるパネルディスカッションを実施しました。

また、休憩時間には、パネリスト登壇自治体から提供を受けた名産品がロビーで振る舞われました。また、その名産品は、各登壇者にもご賞味いただいております。

青木顧問から感想をいただいた後、このサミットを契機に文化庁と創造都市ネットワーク日本（CCNJ）が文化芸術創造都市をさらに推進していくことを「自治体サミット宣言」として採択しました。

また、サミット後には、スマートイルミネーション 2014 船上視察として、横浜港クルーズを実施。参加自治体から提供を受けたお酒などが振る舞われ、横浜の美しい夜景を觀賞しながら、深い意見交換が行われました。

また、開催中のヨコハマトリエンナーレ 2014 のチケットをご提供いただき、視察も合わせて実施いたしました。

ここで、平成 26 年度の事業を共催した各自治体の皆さまから、一言ずつ頂戴したいと思います。

最初に 8 月 8 日に創造都市政策セミナーを開催した札幌市からお願いします。

札幌市 山口氏

札幌市山口と申します。この度は文化庁の皆さま方、日本の創造都市をリードする自治体、個人の皆さま方、セミナーを設ける機会をいただきましたこと、誠に感謝を申しあげます。北海道の一番良い時期に東川町さんと連携して開催できたことは、北海道に住む人間とし

で嬉しく思っております。

今回「芸術祭と創造都市」というテーマで開催させていただいたものですから、ちょうど開催しております札幌国際芸術祭の視察も行いました。国際芸術祭につきましては、創造都市さっぽろの象徴的な事業として始めて開催したものでございますけれど、なにぶん札幌は広いものですから、全部は見ていただくことはできませんでしたが、札幌が取り組むのもうとしております一端を感じていただけたものと思っております。今後につきましては、夏の時期を見ていただきましたので、いつになるか分かりませんが、冬の札幌の時期も大変良いものですから、そういう機会を今後も設けていただけるよう、札幌の創造都市を推進していければと思っております。ありがとうございました。

事務局：橋本氏

ありがとうございます。次に、8月10日に創造農村ワークショップを開催した東川町からお願いします。

東川町 竹部氏

北海道、写真の町東川町から参りました、写真の町課の竹部と申します。昨年は札幌市さんと連携をとらせていただきながら、創造農村ワークショップ第4回目を東川で開催させていただきました。文化庁さまを始め事務局ノオトの皆さまにお世話になって、無事に開催することができました。写真の町は1985年に写真の町を宣言して、昨年ちょうど30年という節目の年を迎えたわけですね。それに合わせて東川で開催していただきたいと申し出をさせていただきました。先ほど橋本さんの方からお話がありましたけれど、会場であった「地域交流センター 多目的ホール」、ここは小学校とくっついている施設であり、まだ小学校がオープンする前でありました。この創造農村ワークショップがこけらおとしになったというわけでありまして、この小学校は、平屋建てでありまして、直線廊下が350mで全部の学年をまかなっている、360人くらいいる学校です。一直線の廊下が日本一長い廊下ではないかということでもあります。教育も日本一を目指して、力をいれているところであります。

経済の首都は東京、いろいろな機関も都市部に集まっているわけですが、文化は地方でもいいのではないかとということで、写真文化首都というものを昨年3月に議会で議決をいただき、東川町は宣言をさせていただきました。これは日本写真協会、日本写真家協会にもお話をさせていただいて、今までそういったものを宣言したところはないので、早いもの勝ちだよということで、全国で最初に写真文化首都ということ宣言させていただきました。東川から写真に関する情報発信を国内、国外にさらに広めていきたいと思っております。昨年東アジアの地域とも写真で連携をとろうという事業も実施させていただきましたし、国内で写真を核として、まちづくりや地域づくりをやろうという自治体、団体と連絡協議会を設立させていただきました。横の連携をとりながら、写真文化の発展に今

後努めていきたいと思っております。今後とも宜しく願いいたします。

事務局：橋本氏

ありがとうございます。次に 10 月 31 日に自治体サミットを開催した横浜市からお願いします。

横浜市 矢野氏

横浜市文化観光局創造都市推進部の矢野と申します。10 月 31 日に横浜で開催させていただきました。その際には青柳長官、佐々木先生をはじめ、7 都市の首長さん、そして CCNJ の加盟団体の皆さまに多数おいでいただきました。その中で創造都市ネットワーク日本の自治体サミットという形で熱心な討議をしていただき、宣言という形でまとめたことは非常に意義深いことだと考えております。

宣言の中に盛り込まれておりますように 2020 年にむけた大きな目標で、世界に向けて日本が文化芸術でハブになっていくのだということは、まさに一都市で出来ることではないと考えております。ちょうど横浜で東アジア文化都市という事業をやっておりまして、この事業は海外の都市とやっていたが、国内国外取り合わせながら、日本が世界に対して文化芸術のハブになっていく、という心構えを打ち出していったことは非常に素晴らしいことだと思っております。またパネルの中にありましたけれど、当日たくさんの物品の提供をいただきまして、誠にありがとうございました。

事務局：橋本氏

ありがとうございます。第 1 号議案「平成 26 年度事業報告について」は以上です。

引き続き、第 2 号議案「平成 27 年度事業計画について」ご説明いたします。

創造農村ワークショップを、平成 27 年 8 月に新潟県十日町市を会場とし、十日町市を共催として開催いたします。

創造都市政策セミナーを、平成 27 年 9 月に大分市を会場とし、大分県を共催として開催いたします。

ネットワーク会議、総会になりますが、平成 28 年 2 月に金沢市で開催いたします。

仮称となりますが、世界創造都市サミットを平成 27 年 5 月 25 日に金沢市で開催いたします。

また、これらの会合に加え、規約第 4 条に掲げる各事業を必要に応じて実施いたします。

第 2 号議案「平成 27 年度事業計画について」は以上です。

議長：相川氏

それでは、議案についての質疑・討論を行いたいと思います。ご発言される場合には、ス

スタッフがマイクをお持ちしますので、挙手をお願いします。なお、ご発言の冒頭には、所属、肩書き、お名前をおっしゃっていただきますようお願いいたします。いかがでしょうか。どのようなことでも結構です。ご発言があれば承りたいと思います。ないようでしたら、議案の採決に入りたいと思います。

本ネットワークの規約第10条第3項の規定により、総会にご出席の構成員の「過半数」をもって議決となります。先ほど報告を受けたとおり、本日の出席数は32ですので、過半数は17となります。なお、採決の方法については、各団体代表1名及び個人会員の方の「挙手」にて行わせていただきたいと思いますので、よろしくご協力お願いしたいと思います。それでは、第1号議案「平成26年度事業報告について」の採決を行わせていただきます。議案に賛成の方は、挙手をお願いします。ありがとうございます。賛成多数ですので、第1号議案は「承認」とさせていただきます。

続きまして、第2号議案「平成27年度事業計画について」の採決を行わせていただきます。議案に賛成の方は、挙手をお願いします。ありがとうございます。賛成多数でございますので、第2号議案は「承認」とさせていただきますと存じます。

議長：相川氏

本総会の議案については、すべて承認されました。全体を通じて、顧問の佐々木先生から一言お願いいたしたいと思っておりますので、いかがでしょうか。

顧問：佐々木氏

本日時間がまだありますので、本年度ご参加いただいた方で、ご紹介をお願いしたいと思います。

議長：相川氏

では初めてご参加いただいた方のご紹介をお願いできればと思います。

事務局：橋本氏

はい、本日参加いただいた皆様の中で今年度昨年の総会から今日の総会にかけて、新たに参加いただいた団体をご紹介いたします。岡山シンフォニーホール、高次様。いらっしゃいますか。

岡山シンフォニーホール：高次氏

こんにちは初めまして、公益財団法人岡山シンフォニーホールの専務理事と、2001席のクラシック向けのコンサートホールの館長も兼ねております、高次と

申します。私は実は岡山市役所にいた頃に、佐々木先生の社会のベースに文化を置いて経済活動を、都市活動やっていくんだ、というご講演を聞いて、非常に共感いたしました。それからお付き合いをさせていただいておりました。佐々木先生が、去年の暮れに岡山へ立ち寄られた際、CCNJ に強くお誘いを受けました。その際、岡山市の自治体を巻き込まないと実質的なメリットはないということでしたので、年末に岡山市長にこのお話をさせていただきました。その際「参加してもいい」と言われたのですが、実は今日一緒に来たかったんですけど、お役所仕事は庁内手続きに時間がかかりまして、まだ決裁手続きを受けられていないということですので、帰ってしっかり催促したいと思います。

私はこの財団で館の運営と、金沢のように常勤の楽団員ではないのですが、登録団員制のオーケストラを持っていて、その運営も行なっております。ホールの立地ロケーションとしては岡山駅から約 1 キロのところの後樂園と岡山城があり、それらと接したところに、県立美術館や市立オリエント美術館、個人コレクションの林原美術館、そういった文化施設が集積しているエリアにございます。

私自身音楽が得意でもないのですが、この仕事に就いたということを契機にしまして、こういった文化施設群と手を結んで、このエリアで文化というものをベースとした都市づくりに挑戦していきたいと思っております。時あたかも昨年末には、先ほど佐々木先生も仰っていた地元経済人の主催する現代アートの「イマジニアリング」が開催され、また 2 年後に開催される「2016 瀬戸内国際芸術祭」にあわせてやろうという動きもあります。このような動きとも連携して、都市の根っこに文化を刻み付けるような活動に少しでもお役にたてればと思います。今後ともどうぞお付き合いいただければと思います。ありがとうございました。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。新たに加盟いただいた団体で、本日出席された団体は岡山シンフォニーホールさんになります。

続きまして、自治体をご紹介させていただきます。昨年 9 月に山形市、昨年 10 月に埼玉県、京都府、兵庫県、昨年 12 月に岡山県真庭市、昨年 8 月に大分市、昨年 6 月に大分県、本日出席いただいている新たに参加いただいている団体の方は以上でございます。

それでは北から順番に山形市の中村様。お願いいたします。

山形市：中村氏

9 月にこのネットワークに参加させていただきました、山形市から参りました中村と申します。今回ネットワークに参加させていただくきっかけになりましたのが、うちの課から札

幌のセミナーに参加させていただき、これはすぐにでも入らなければならないということで、戻ってすぐに手続きをさせていただいたところです。山形市では1989年以来市政100周年の時に始めました、山形国際ドキュメンタリー映画祭というものを隔年開催で行っております。そして現在ムービーフェスティバルという、もう一つの映画祭もありまして、そちらの方では若手映画作家の発掘、育成ということを目標に開催しております。そのような映像文化の様々なものを核としまして、これから山形市も皆さまと一緒に文化創造都市ということで取り組んでまいりたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。

事務局：橋本氏

ありがとうございます。続きまして埼玉県からは小池様、豊野様、飯田様の3名がご参加いただいております。代表して小池様で宜しいでしょうか。宜しくお願いいたします。

埼玉県：小池氏

埼玉県県民生活部文化振興課長の小池と申します。埼玉県には、彩の国さいたま芸術劇場があり蜷川幸雄芸術監督のシェイクスピアシリーズなども発表しています。また県内各地で色々な文化活動に取り組んでいますが、なかなか特徴がありません。もうすこし文化が盛んな埼玉というイメージがあってもよいのではないかと思い、文化庁の方を講師に市町村対象の研修会を開催した際に「創造都市ネットワーク」のお話をいただきました。まず埼玉県が加入し「創造都市ネットワーク」の活動を伝えることで、各市町村の加入につながればと思っております。

埼玉県は、岩槻市と鴻巣市という雛人形の二大産地を持っておりまして、雛人形でとても賑やかな時期です。一度お越しいただくと嬉しいなと思います。創造都市ということで、これからも頑張ってまいりたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。埼玉県の中ではさいたま市さんと草加市さんの2都市が入っておりますので、更にPRしていただければ嬉しいかと思えます。続きまして京都府の大同様、宜しくお願いいたします。

京都府：大同氏

京都府から参りました、文化政策課の大同と申します。昨年10月に本ネットワークに参加をさせていただきました。どうぞ宜しくお願いいたします。京都府では京都市さんをはじめ、本日まで出席の舞鶴市さんもそうですが、府内の市町村、また経済界の皆さんとともにオール京都体制で様々な文化発信に取り組んでおります。少し前になりますけれど、2008年には源氏物語千年記事業をさせていただきました。式典では天皇皇后両陛下ご臨席の下、

「古典の日」宣言というものをさせていただき、そういう経過もありまして、平成 24 年には 11 月 1 日を「古典の日」とする「古典の日に関する法律」も制定いただき、その後も 11 月 1 日は「古典の日」の記念式典やフォーラムを開催し、青柳長官にもご挨拶・ご講演をいただくなど、文化庁さんにも大変お世話になっているところでございます。その間にも、平成 23 年、2011 年には京都府では国民文化祭の開催をさせていただきました。これからですけれども、2020 年の東京オリンピック、パラリンピックを控えまして、世界から日本の文化がますます注目されていくだろうということで、京都府におきましても、オール京都体制で、これから 4 年間をかけまして、「京都文化フェア」という、まだ仮称ではございますけれども、準備を進めていくところでございます。これにつきましては、佐々木室長にも多大なご支援、ご協力もいただいております。今年は琳派 400 年の年になってございまして、記念祭の準備にも取り掛かっているところでございます。また、来月から京都では初めての大規模な現代芸術の国際展となる、京都国際現代芸術祭を京都市内各地で開催させていただきます。オール京都体制ということで、京都市さん、経済界の皆さんと一緒に進めております。これらを成功させ、2020 年の東京オリンピック、パラリンピックに繋げ盛り上げていきたいと考えております。これからもご指導、ご支援のほど宜しく願いいたします。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。続きまして兵庫県の山本様宜しく願いいたします。

兵庫県：山本氏

はじめまして、兵庫県の山本と申します。宜しく願いいたします。兵庫県の今年度新たに取り組んだことを紹介させていただきたいと思っております。ふるさとに着目し、現代アートをもちいた、神戸ビエンナーレを始め、西宮船坂、龍野、養父・大屋、朝来、丹波篠山、淡路の、行政や地域の人々、また NPO などがされる県内の主な芸術祭 7 団体に入っていたいて、平成 26 年 7 月に、「アート de 元気ネットワーク推進会議」というものを立ち上げました。これは様々な取り組みをされている皆さまとネットワークを作り、それぞれの活動を盛り上げていこうという取組です。これが創造都市にどう発展していけるかというのは今後の課題ではあるのですが、こういう取組を兵庫県がしていることを紹介させていただき、ごあいさつに代えさせていただきます。今後ともどうぞ宜しく願いいたします。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。つづきまして真庭市から池上様、平田様、朝野様の 3 名にご参加いただいておりますけれども、代表して池上様願いたします。

真庭市：池上氏

皆さまはじめまして、岡山県の真庭市からまいりました。真庭市のことを始めて聞いたという方も大勢おられるかもしれません。岡山県の北の最大の面積を誇る町です。ただし人口は 5 万ほどしかおりません。ですから非常に過疎が進んでいるまちです。私ども文化振興課ということで文化事業を進めているのですが、実はこの文化振興課、去年の 4 月に出来たばかりです。それまで文化事業というのは教育委員会の方でやっておったわけですけど、市長が文化事業を本気でやろうということで私どもの課ができました。まだできたばかりで、文化の方はこれから創造していかなければならないのですけれど、諸先輩方、他の自治体の方に教えていただきまして文化都市を目指していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の方宜しくお願いいたします。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。つづきまして大分市の三好様宜しくようお願いいたします。

大分市：三好氏

大分市からまいりました商工労政課課長の三好と申します。今日は大分県の皆さまがこちらに来られておりますので、後ほどお話があるかと思いますが、大分県立美術館が今年 4 月に完成します。また、大分の駅ビルもこの 4 月に、22 階建てのビルが完成します。そういう中にありまして、大分市は「トイレンナーレ」という職員提案でトイレを舞台としたアートフェスティバルをやりたいということでありまして、25 年度から 3 年間かけて準備を進めています。今年の 7 月から 9 月の間、この期間は奇しくも JR 各社が大分県でディスプレイネーションキャンペーンをやっていただけということで、たくさんのお客様が来て頂く中で、アートフェスティバルを開催します。

私は昨年、大分市の文化国際課というところにおり、文化芸術振興プランの策定をしておりました。そこで鳥取大学の野田先生のご講演を聞かせていただきながら、作っていたのですが、その時に文化芸術創造都市ネットワークに入ったかどうかというお誘いいただきました。

そして、私が異動したら中心市街地の活性化に資する為ということで「トイレンナーレ」を担当している課ということで商工労政課が担当課になりました。文化は人間的には縁が無いのですが、仕事の縁があるなと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。

そして入口のところに「トイレンナーレ」を PR するパンフレットとピンバッジを置いております。是非持って帰っていただければと思います。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。非常に遠いところ重たいものを持ってきていただきましたので、ご協力をお願いいたします。では大分県から大海様、山中様、三嶋様、大分県芸術文化スポーツ振興財団の三浦様の 4 名様にご参加いただいております。代表して大海様からひと

言をお願いします。

大分県：大海氏

皆様こんにちは。大分県の芸術文化スポーツ振興課の大海と申します。先ほど大分市さんのほうからお話がありましたけれど、4月24日に県立美術館がオープンいたします。昨年の美術館誕生1年前イベントでは青柳長官においでいただきありがとうございました。大分市に県立総合文化センターという大きなホールがありまして、美術館は道を挟んで向かい側、まさしくホールと美術館が同じ場所にできるということで、大分県では両施設を芸術文化ゾーンの中核と位置付けています。そこを拠点として、芸術文化関係団体をはじめ、教育、産業、福祉、地域づくりなど様々な団体とネットワークを構築し、連携することで、芸術文化の振興はもとより、芸術文化の持つ創造性を活かしながら、少子高齢化や産業振興、人材育成など様々な行政課題に対応していきたいと考えております。

そうした中で、今年度、県の長期総合計画の見直し時期になっておりまして、今後の芸術文化施策の方向性について提言いただくことを目的に「芸術文化ゾーンを活用した新たな展開研究会」を設置いたしました。研究会の委員には、佐々木先生をはじめ、外部有識者の方々に就任いただき、芸術文化による創造の場づくりや関係団体等との連携のあり方、大分県ならではの創造都市の取組といったことで多くの示唆に富んだ提言をいただいたところ です。

このような流れもありまして、昨年6月、CCNJに参加させていただいたところです。本日は、研究会の座長をつとめました三浦も来ておりますので代わりたいと思います

大分県芸術文化スポーツ振興財団：三浦氏

三浦と申します。弊財団は、大分県立総合文化センターと、今春開館する大分県立美術館、愛称OPAMを運営する財団でございます。また、CCNJにはBEPPEU PROJECTも加盟していますが、同NPOの山出代表理事がどうしても本日都合がつかないということで、私は「混浴温泉世界」の実行委員もつとめておりますので、山出の代理としても、ご挨拶をさせていただきます。

先ほど21世紀美術館の展示を拝見しまして、建築をテーマにした3つの展覧会を非常に興味深く拝見させていただきました。我が大分県出身の磯崎新氏が大きく取り上げられました。また3つの展覧会に共通で展示されていた建築家はごく少数だと思いますが、その一人が坂茂氏です。実はOPAMは坂茂氏のデザインであり、非常に特徴的な美術館です。是非来年度セミナーで大分にお越しの際、ご覧いただきたいと思っております。またその時には、先ほど話題に出た大分市のトイレナーレ、別府では「混浴温泉世界」、或いは「国東半島芸術祭」のプロジェクトも残っておりますし、竹田でもアートや工芸のイベントがございます。そういったこともあり、大分県の先ほどの研究会の提言としまして、創造都市、創造農村が県内にいっぱいある姿を目指して、「そうぞう県おおいた」を名乗ることに

なりました。一昨日知事に報告してきたところでございます。またロングライフデザインの視点から地域の観光、魅力をとりあげる「d design travel」という観光ガイドがございす。その最新号は大分県を特集しています。県としてもいろいろ協力しながら、ようやく刊行までこぎつけたところです。是非、大分にお越しなる時には「d design travel OITA」をお手元に常備いただくと、いろいろな切り口で大分の魅力を味わっていただけるのではないかと思います。宜しく願いいたします。ありがとうございました。

事務局：橋本氏

ありがとうございました。本日も欠席の団体で新たに参加された団体ですが、取手市、草加市、甲賀市、南丹市、尾道市、滋賀県と一般財団法人日本ファッション協会、公益財団法人兵庫県芸術文化協会、山形国際ドキュメンタリー映画祭 以上が昨年の総会から本日の総会にかけて新たに参加された団体であります。

議長：相川氏

参加いただいた方々のご協力を得て、いろいろな事業をお伺いすることができました。これからますます、団体の方々との交流を深めてネットワークを強くしていければと思いますし、文化庁、佐々木先生のご協力を得ながら、我々がそれぞれの都市におれば、また深い繋がりができると思いますので、ご協力のほど宜しく願いいたします。

それでは来年度事業として、承認をしていただきました創造農村ワークショップを来年度お願いいたします、十日町市からひと言お願いいたします。

十日町市：渡辺氏

どうも皆さまこんにちは。新潟県十日町市からやってきました観光交流課の渡辺でございます。この度は平成 27 年度の創造農村ワークショップの開催地に十日町市を選定いただきましてありがとうございます。精一杯務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

私ども新潟県十日町市は新潟の南部に位置しておりまして、皆さま創造都市も想像できないと思いますが、まだ約 3m の積雪がございす。ワークショップの 8 月には、雪も融けて皆さまを歓迎できるところでございす。今年は 7 月 26 日から第 6 回大地の芸術祭、越後妻有アートトリエンナーが開催されます。50 日間でございますので、ちょうどワークショップで皆さま方がおいでいただく頃に開催しております。現代アートと、日本の原風景であります十日町市の里山の風景を、ご堪能いただければと思っております。開催市といたしまして文化庁さまや佐々木先生にご指導賜りながら、開催に向けて準備を進めていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

議長：相川氏

大地の芸術祭を楽しみにして、皆様お越しいただければと思います。いろいろな芸術祭やイベントを持っておいでになる自治体はたくさんいらっしゃいます。この繋がりをますます広く広く繋げていければいいかと思しますので、皆さま方のお声掛けもひとつよろしくお願いたしたいと思っております。ありがとうございました。

それぞれの団体の方々からいろいろなご報告、お紹介、PRをいただきました。すべての議案につきましても承認をいただく形で終わらせていただきました。皆さま方に円滑な議事にご協力いただきまして、ほんとうにありがとうございます。厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。ここからは、司会にマイクをお戻しします。

司会：高橋氏

ありがとうございました。

次に、その他の項目となります。改めて、横浜市よりご報告頂戴できるという旨を伺っておりますので、横浜市の矢野部長からお願いいたします。

横浜市：矢野氏

横浜市の矢野でございます。昨年1年間にわたりまして東アジア文化都市を開催させていただきました。事業の遂行にあたりまして、CCNJ加盟の都市、団体の皆さまの多大なるご支援、ご協力を賜りました結果、無事に終えることができました。この場をお借りしまして、御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。また、佐々木先生には実行委員会の副委員長になっていただき、いろいろな場面をお願いすることが多かったと思います。ありがとうございました。事業の具体的なご報告につきましては、明日、新潟市で行われますシンポジウムでご報告させていただきたいと思しますので、もしよろしければそちらでご覧いただければと考えております。今後とも引き続いて宜しくお願いいたします。

司会：高橋氏

ありがとうございました。本日は市長の方からもありましたが、レセプションの開催もございますので、その折に改めて意見交換が出来ればと存じます。

以上をもちまして、「平成26年度 創造都市ネットワーク日本 総会」を終了いたします。ありがとうございました。